

南アフリカ産柑橘類 ベトナムをはじめアジア市場に目を向ける

[FreshFruitPortal](#) 2024年3月29日

南アフリカの柑橘類の輸出シーズンは4月に始まり、ベトナムがオレンジの最も新しい輸出先となる。

農業・土地改革・農村開発省(DALRRD)はシーズンの開始を前に、南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)と共同で、ベトナム政府との二国間協定の締結を発表した。

CGAの最高執行責任者(COO)であるポール・ハードマン氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、この市場の開放により、1万5千トンのオレンジ輸出の可能性がもたらされると語った。(以下「」は同氏の発言)

南アフリカは合計約7万5千エーカーでバレンシアオレンジを、約3万7千エーカーでネーブルオレンジを栽培している。(1エーカー=約0.4ヘクタール)

「この協定により、より多くの雇用機会が生まれ、ベトナムの消費者に我々の品質の高いオレンジを再び紹介することになる。南アフリカの柑橘類産業は目覚ましい速度で成長しており、ベトナム市場はこの成長の一部を吸収するだろう。」

南アフリカの柑橘類の出荷シーズンは4月に始まるが、輸出量は5月に増え始める。その時点で、業界はベトナムへの「かなりの量の」出荷を開始することを期待している。

「まずネーブルを輸出し、その後バレンシアの収穫が始まればそれを輸出する。」

さらなる拡大の可能性

ハードマン氏は、ベトナム市場に多くの可能性を見出しており、今回オレンジの輸入が承認されたことで、マンダリン、グレープフルーツ、レモンの申請が続くという。

「アジア市場は全般的に可能性がある。主な理由は、成長している経済、人口の多さ、輸入果実の価値の高さ、果実が多い食生活、そして彼らの品質志向である。」

ベトナム国内の複数の大手小売業者が数千軒の小さなコンビニエンスストアをオープンし、今では良質の柑橘類を扱うことができるという。

FAOSTAT(FAOの統計データベース)によると、南アフリカは世界でも有数の柑橘類輸出国であり、2022年の輸出総額は17億2千万ドルに上り、全世界の輸出額の11.7%を占める。

南アフリカからの柑橘類の主な輸出先は、オランダ(3億4,300万ドル)、イギリス(1億5,400万ドル)、ロシア(1億3,800万ドル)、アラブ首長国連邦(1億3,700万ドル)、そして中国(1億3,400万ドル)が続く。

ハードマン氏によると、南アフリカは現在、インドへの貿易拡大に懸命に取り組んでおり、また、タイと韓国にも期待が寄せられている。

執筆者: セバスチャン・ラミレス